

アジアダイナミズム研修視察(済州平和フォーラム2018) 学生報告

※要約抜粋

経営情報学部1年 西山 早紀

済州平和フォーラムでの印象が強かった言葉は、韓国イ・ナクヨン首相の「奇跡は奇跡的に起こらない。奇跡は準備があり、努力をして起こるもの」であった。朝鮮半島における核や平和の問題解決は国際関係における今後の奇跡といえるが、我々も学生のうちに今回の研修のような経験を積み重ねながら準備をして、アジア平和を目指せる人材になっていかなければと感じた。

経営情報学部1年 村田 月夜

フォーラムの合間に日本の経営者の方々と交流する機会があり、様々なお話を聞いて勉強になった。セッション中にコメントを求められる機会があったので、多くの聴衆の前に立って即興の発表をし、非常に緊張した。幸いにも同席の経営者の方々から好評を頂き、ここで私は自分の殻を一つ破った感覚がして、何事も行動すべきと強く思った。学生交流会では、合唱や琴、空手なども披露していただき、韓国の細かい文化や生活等を聞くことができた。本当にフォーラムも素晴らしかったし、日韓の文化や政治経済の違いをもっと知りたいので、来年も済州島研修は、ぜひ参加したいと考えている。

経営情報学部2年 小林 史明

研修中に驚いたことは、韓国人の日本語の習得率であった。日本語学科の学生は勿論、街の人たちも積極的に日本語で話しかけてきたので感心した。日韓関係は悪いと思われているが、それは政治や外交から来るもので、文化面での仲は友好的だと感じた。多摩大主催のセッションテーマは「持続可能な100年経営」、「倫理経営」であり、大統領や首相経験者が語る「世界リーダー会議」等、非常に有意義な話が多く、為になった。過去日本が韓国に酷いことをしてきたのは事実だが、一方では、何度も謝罪をし、援助もしている。完全には許せないのは判るが、韓国側も考えを柔軟にしてくれないと関係は大きくは変化しないと思った。若者の大半は仲が良く、互いの文化を享受しているので、私たちの世代が国を仕切るときになれば、良好な関係になると期待している。

経営情報学部2年 小柳 京也

済州フォーラムでは、アジアにおける環境問題への対応や相互理解の未熟さが指摘され、これら問題解決のための教育が必要と感じた。例えば、日韓歴史問題においても、日本の一部は「韓国を併合し、いいこともしてあげた」という言い分があり、韓国では「侵略され虐げられた」という悲しい歴史をみているが、配慮や思いやりという日本人ならではの良さを発揮し、アジア平和に向けての解決を志向しなければと思った。自分も無知から脱して、外国と日本の架け橋となれるような仕事に強く興味を持てるきっかけになった。常にアンテナを張り続け、傾向しすぎた意見にならないよう知識を深め、国際社会で恥ずかしくならないよう、勉強や国際交流に向き合っていきたい。

経営情報学部2年 霜田 愛璃

済州島研修に参加して、日韓関係の向上を日韓共に望んでいることを改めて知ることができた。世界平和について様々な観点から学ぶことができ、特に有名俳優であるチョン・ウソンさんがゲストとして参加した難民問題セッションは考えさせられた。難民を一挙に受け入れることは現実問題として難しくとも、可能な限り前向きに対処すべきと思った。済州島の韓国人は我々に大変親切で、機会があれば今度はプライベートで訪問したいと思ったくらいである。韓国語を中心とした外国語習得も、日々精進していきたい。

経営情報学部2年 長堂 一慎

韓国のイメージが行く前と、行ってからでは逆転した。私がいけないことで困っていたところ、かまってくれるか、優しく話しかけてくれる韓国人が多く、海外に興味を持つきっかけを済州島研修は、つくってくれた。色々な海外に行き、日本と他国を比べながら知識と経験を積みみたいと強く思えるような貴重な研修であった。

経営情報学部2年 中村 宙貴

フォーラムで得た示唆は、互いがリスペクトし合えば多くの問題は解決できるということである。狭い視野や先入観で物事を判断してはいけないのである。どの国にも、いい人は必ずいて、仲良くやっていけるなと感じた。今回の研修をきっかけに、どの国の人もコミュニケーションを取れる機会があったら絡んでみたいと思った。

経営情報学部2年 根本 愛輝

今回で2回目の済州島研修であった。去年は、1年生で、初の海外研修だったので、わからないことも多かったが、今回は余裕を持ちながら知識習得もでき、楽しむことができた。この研修での経験から、勉強に打ち込まなければいけない切実さや、英検への取り組みが促されたと思っている。現地の人々の温かさに触れることで、韓国をよく思っていない人も、きっと印象が変わるので、多くの学生にこのフォーラムには行ってもらいたい。

経営情報学部2年 八束 あき

学生交流会で感じたのは韓国の大学生の勉強への意識の高さであった。外国語への取り組みや、毎日が熾烈な競争での熱心さを見習い、よりしっかりした勉強をしなければならなかったと思った。フォーラムの内容は、インターゼミで研究しているテーマも多く、私が学生交流会で発表した文化交流もテーマとして取り上げられて大変参考になった。アジアの近現代史を知りつつ、相手の考え方も理解していかなければならないことは、これからのグローバル社会における人生において活かせることだと思う。

経営情報学部3年 植草 裕貴

常に同じ場所に居て、坦々と日々を過ごすとも何も変わらない。日本を出て、少しでも世界情勢に興味を持つべきで、知識が増えれば、物事をより多面的に、かつ正確に分析できる。その点、済州フォーラムに参加することは、より世界情勢に関心を持つのに、良いきっかけになったと感じた。ハンラ大学の学生と交流したことで、韓国人の日本に対する印象を把握することができ、互いの習慣の同異についても話しかけることができ、有意義であった。今回の研修を通じて、日本人は韓国など他国をさらに理解し、一層協力し合うことができると確信した。この経験を糧に、より広い視野を持ち、心を開き続けることにした。今日の安寧をただ享受するのではなく、身の周りで起きている問題を見つめ、自分は行動したい。

経営情報学部4年 笠井 元

2回目の済州島研修であった。セッションの内容は高度で理解するのは難しいものばかりだったが、「どのように他国の問題を捉えられるか」と考え、「世界から見たアジア又は日本」という思考が身についた点を鑑みると前回とは大きく変わった自分があることを実感した。今回の研修で、普段ではじっくり話すことはない多くの教職員と会話でき、大変有意義な学びを得ることができた。今回の研修に対して、死ぬまで知識と知恵を蓄えていく大事さや、新たな世界に踏み出す意味を気付かせてもらったということに感謝したい。



多摩大生に激励の挨拶をする福田康夫元総理



多摩大生・教職員・多摩地域住民と福田元総理の記念写真



済州漢拏大学 国際交流会

「デジタル時代のメディア実践」の現場から

2匹の犬からの“贈り物”

経営情報学部 3年 玉置 遥菜

「プードルの可愛さについて見入ってしまうので、作品課題を忘れそうになります。2匹のプードルに感謝しなければね！」

最終課題の動画作品を提出したときの木村先生からの返信メールです。犬の可愛さに頼ってしまっていること、私が考えた「命の大切さ」というコンセプトには一歩届いていないということなのだと思います。それよりも、私がなんとなく作品を作っているのが伝わってしまっているのだと思いました。提出後の授業で先生の話聞き自分のコンセプトがやっぱり違うと思う「作り直そうと思います…」と先生に話に行きました。

「あなたがそう思ったのなら、ぜひチャレンジだね」

正直、作り替えなくてもいいと言われるのではないかと考えていたのでびっくりしました。

そもそも私は動画作品を作ったり自分の音声を入れたりする経験はなく、この教室で初めて取り組むことになりました。最初の課題はデジタルストーリーテリングという画像による構成作品でしたが、その時も、そして動画の制作に進んだ最終課題も、ただなんとなく作って提出しました。最終課題では自分の愛犬を撮って作品にすることを考えました。撮った写真や動画を並べるだけの作業は簡単でしたがストーリーを考えるのは難しく、とにかく犬の可愛い映像をつないで提出しました。

作り直す先生に言いましたが表現したいと思った「命の大切さ」を伝えるためにはどうすればいいのか、本当に真剣に考えました。

我が家の犬たちはもともと従兄の家で飼われていましたが仕事で家を空けることが多いため、虚弱体質だったラクスが体調を崩したのをきっかけにお母さんのカメラとともに我が家で預かることになりました。いまではすっかり家族の一員となっていますが、カメラは老化が進み白内障でほとんど目が見えなく認知症も進み、老犬介護の毎日となっています。でも、喋れないだけで犬も人間と同じ生き物で懸命に生きています。命は秒刻みで時間が進んでいるけれど、私の愛犬たちのように懸命に生きることの意味があるのだと、だから人間も一日一日を大切にしてほしい、そんな思いをこめて動画の作り替えに取り組みました。犬が生きて楽しかったと思えるかは飼い主次第だと思います。でも、人間は自分次第で人生を意味あるものにし、楽しく生きることが出来ると思います。たった1度しかない人生を悔いなくみんなに生きてほしい、それを表現したいと思ったのです。

私の作品を教室で見た日、事情があり学校に行けませんでした。見た人の心に何か残っていればいいなと思っています。最初の課題制作の時にみんなの作品を見て、私には作れないようなすごい作品が沢山ありました。短い動画一つ作るのも時間もかかり大変だと思いました。出来上がった作品を教室で見るのは恥ずかしい反面、とても嬉しかったです。私はこの動画作りを通して、2匹から楽しい毎日を貰い、命の大切さを学びました。2匹と過ごせる時間を1秒でも多く作り大切にしたいと思っています。

今回のこの体験を通じて、何事も手を抜いていたらわかる人にはわかると改めて知り、「やり直す」大切さを学びました。自分の「大切なこと」を知ったらやり直す、そんな再チャレンジの姿勢は、今後の生活にもぜひ生かしていきたいと思いました。



主人公は2匹の愛犬、ラクスとカメラン(左)



毎日の散歩で“命”を見つめる

学びから、クリエイティブな挑戦へ

経営情報学部 4年 増田 悠斗

動画制作に興味を持っていた私は、シラバスを読んで初回の講義に行ってみた。教室からあふれるほどの学生には面食らったが、動画の企画・制作にチャレンジと聞いて、自分の表現の幅を広げたいと思い受講を決めた。これまでも趣味の一環として動画制作に取り組んでいたため、この講義で作る作品は大学生活の集大成にしたいと思った。

最初に取り組んだのは、画像をスライドショー形式で繋ぎ、自分のナレーションをつける、デジタルストーリーテリングと呼ばれる作品制作だった。西日本を旅したこと、カメラを買って写真撮影が趣味になったこと、20歳からピアノを始めたことなど、思い出の写真を取り出しながら、当時の心境を綴って作品を作ってみた。私にとっては自分を変えるきっかけとなった出来事をスライドショーにまとめたものだったが、これから新たに大学生活をスタートする人に向けて、色々な挑戦をしてほしいというメッセージをこめたものでもあった。静止画で構成したスライドショーと自分の肉声で、伝えたいことをどのように表現するか、なかなか大変で試行錯誤を重ねた。しかし、一生懸命考えて形にしていくなりに、作品作りの楽しさを実感した。

第2ステージは難易度が一気に上がった。動画作品のプラットフォームを企画して、そこに盛り込む動画の制作をという課題だ。普通の勤め人だった若い女性が新しいプラットフォームを発想して、とうとうその運営を仕事にすることになったという事例を教室で学んだ。しかし、そんな企画を発想するのは簡単ではない。なかなか思いつかなかったが、ふと抱いた疑問がヒントになった。スマートフォンの普及で誰でも簡単に情報発信ができるようになったことから動画投稿サイトなどで動画を発信する人も増えている。動画投稿サイトを眺めていると、面白い動画を作る人は人気があり、何十万、何百万の再生数を叩き出している。しかし、面白い動画を作るのにあまり人気のない人もいる。良い動画を制作しているのになぜ人気が出ないのか?!そのまま埋もれてしまうのはもったいない。初心者クリエイターをサポートするプラットフォームを作ったらいいのではないかと。そうだ!クリエイターの卵を応援する「クリたま」だ。そこから先はどんどん発想がふくらんだ。サービスを紹介するPVを制作し、その制作者インタビューとして私が登場、自分のインタビュー動画を仕上げた。そしてそのプラットフォームに載せるサンプルとして、私が大学生活で制作した動画をダイジェストにしてまとめてみた。

教室で一緒に見た学生からオドロキの声。「これ面白い!このプラットフォームは成立するね」と木村先生。嬉しかった。私にとっては、動画制作のスキルアップはもちろん、大学生活におけるクリエイティブな挑戦の集大成となった。

この講義を通して、自分の発想や表現の幅が更に広がったと感じた。また、自分の作品だけでなく他の人たちの作品を見ることで、新たな発見や考えもなかった表現の仕方があった。他者の作品を見ることも大切なことだと知った。

私にとって今年が大学最後の年。ここでの学びを生かして、卒業後もクリエイティブな挑戦を続けたいと思う。そして、何らかの形で活躍のフィールドを拓いていければと考えている。



愛用のカメラでいつでもどこでも撮影 OK



現場に立って感じる創造の原点

私の大学生活

グローバルスタディーズ学部 (SGS) 4年 山本 菜実

私が SGS を選んだ理由は、言語とホスピタリティを学べると思ったからです。私は幼い頃から、祖母が民宿を営んでいる影響でお手伝いをしていたので、ホテル業に興味を持ち、将来はホテル業に就職したいと考えていました。そしてオープンキャンパスに行った時に、先生方や学生が話しやすくアットホームな雰囲気だったことから入学を決めました。

実際に入学してみて、SGSは少人数制で授業を行っていて、先生との距離が他大学より近く、コミュニケーションが取りやすいです。学部長でさえも、顔を覚え、話しかけてくださるので親しみやすいです。特に私と仲良くしてもらっているのは、藤沢市観光ゼミの堂下恵先生です。

堂下先生はゼミの時間だけではなく、大学の悩みや就職活動について、時間を取ってくれて真剣に話を聞いてくださいました。ゼミが終わった後もみんなでご飯を食べに行き、他の大学では、こんなに学生と先生が近い距離にいることはないのではないのかと思います。堂下先生には本当に感謝しています。

ゼミでは、2020年の東京オリンピックに向けて訪日外国人観光客が増加するために江ノ島でいくらか使ったのか、江ノ島の観光に満足しているのか、改善してほしい所はどこかなどをアンケートして、藤沢市のサービスを向上するための活動に取り組んでいます。どうしたら外国人の方々が藤沢を楽しめるのか、満足していただけるのかを考えることは、私にとって貴重な体験になりました。そして、外国人の考え方、外国人が作るものを好きになりました。少しでも外国人の役に立つ機会ができてとても嬉しいです。堂下ゼミに入って本当によかったです。



私は、1年生の春休みと2、3年生の夏休みに短期留学をしました。1年生の時はシンガポールに2週間、2年生の時はカナダに1カ月、3年生の時は台湾に2週間行きました。シンガポールは、小学生ぶりの海外だったのでとても興奮しました。この留学では、アジアが発展していることを理解する機会になり、想像していたアジアとは違い驚きました。小さい国ですが観光立国で、観光客が沢山きていて、儲け方や楽しませることができる国だと感じました。様々な



シンガポールでヘナツアーを体験



一番下のホストシスター

国の方々を受け入れていて、料理も多様性があり、小さい国なのになぜ人気なのか、少しですが知ることができました。日本もシンガポールの良い所を見習えば、もっと良い国になるのではないかと思います。カナダではホームステイをしました。私がホームステイしたところは、ホストマザーとホストファザー、4歳の女の子、3歳の女の子の4人家族でした。ホストシスターはとっても可愛く、毎日のように遊んでいました。外国人の子供が大好きなので本当に幸せでした。しかし、その子たちが悪いことをしたら怒らなければならず、その怒るときは苦しかったです。しかし、怒ったら理解してくれたので、いい子たちだと思いました。いい経験になりました。カナダのナナイモは自然が多く、過ごしやすかったです。また、行きたいです。台湾は、2週間だけでしたが、充実した2週間でした。初めて1人だけで行った国なので、とても緊張したし、友達ができるか不安でしたが、今も関係が続く友人に出会えることができました。台湾の方々はみんないい人で、中でも驚いたのが、男性の対応が日本人の男性より非常に優しいということです。本当に日本人も見習ってほしいくらい優しくかったです。台湾は、観光地がたくさんで魅力がある所ばかりでした。お茶も美味し

くて日本とはまた違ったおいしさで驚きました。台湾と日本の間に歴史があって、ずっと繋がっているのだと感じました。国と国との繋がりを実際に感じられるいい機会になりました。

私が就職活動でお世話になったのはキャリア支援課の方々と藤沢市観光ゼミの堂下先生です。面接があるたびに練習をしてくださり、指摘や相談に乗って頂きました。予約を取れば、1時間相談に乗って頂けるので、本当に安心して就職活動に挑むことができましたし、落ちたとしても励ましてくれるので就職活動を落ち込まずにできたのは、キャリアの方々と堂下先生のお陰だと思います。みなさまのお陰で夢だったホテル業に就くことができました。本当にお世話になりました。有難うございます。

後輩の方々は、4年生になったら就職活動が始まるので、キャリアの先生やゼミの先生に積極的に頼ることをお勧めします。そして、4年生になる前にしっかり単位を取り終わって就活に一直線で挑めるように心がけた方がいいと思います。そして、3年生の前半は、大学生活を思い切り楽しむことをお勧めします。こんなに遊べるのは、大学生活だけです。単位を取り終われば、終わった後、たくさん遊べます！

大学生活を悔いの残らないように楽しんでください。

私は、夢だったホテルウーマンになりたいと思います。ホテル業界は大変なことが沢山あると思いますが、諦めずにおもてなしの精神を身につけたいと思います。



シンガポールから多摩大学に来てくれた友人 国際交流



昨年の学会発表にて



週3のスポーツ



台湾で一緒に部屋だった名桜大学の友人たち

地域清掃

経営情報学部学生会執行部 部長 2年 田島 凜太郎

7月3日に学生会で清掃活動を実施しました。活動内容は多摩大学学内の花壇の整備や駐輪場などタイルの隙間から生える雑草の摘み取り、大学周辺のゴミ拾いなどです。清掃活動には学生会役員の他にも、男子・女子フットサル部、多摩祭実行委員、各サークルからたくさんのメンバーが参加してくれました。また、一般の学生も多く参加してくれたので、1時間の活動を予定していましたが、30分ほどで多くのゴミを集めることができました。また、先生方や近隣住民の方から「がんばっているね」「おつかれさま」「ありがとう」など声をかけて頂き、とてもやりがいを感じることもできました。多くの学生が参加してくれたことから学生間の交流も深まったと思いますので、学生会として今回の清掃活動はとても満足のできるものでした。



七夕

学生会では、四季の装飾活動として七夕の笹を飾りました。事前に学生から笹に飾る短冊を書いて頂いたのですが、学生会で予測していたよりもとても多く集まり、多摩大学の学生は風流な伝統文化にとっても関心があること、そして学生会の活動に協力して頂ける学生が多いということを再確認できたとても良い機会でした。



BBQ パーティー

7月20日に、学生会主催で学生間交流を目的とした BBQ パーティーを開催しました。前日準備と当日運営などはサークルの皆さんにもご協力頂き、サークル間の交流を深めることができました。当日は多くの学生や教員の皆さんに参加して頂けたのでとても盛り上がり、学生からは「楽しかった」「肉がおいしい」などの好評を得ることができました。同時開催した音楽連合（多摩大学サークル）の野外ライブも大変盛り上がりました。学生会の活動を広く知って頂き、たくさんの学生と、とても充実した時間を過ごすことができ、非常に収穫のあるイベントになりました。



サークル紹介

https://www.tama.ac.jp/student/smis/smis_circle.html

New いーすぽサークル

『いーすぽ』はゲームサークルです！毎週水曜日夕方にアゴラで活動を行っています。今年からできたサークルなのでまだまだやれることは少ないけど、今後に向けたたくさんのイベントも企画しています。ゲームは好きだけど苦手…。ゆるくじゃなくて真剣にやりたい…！そんな人でも大丈夫。ゆるくやりたい人と本気でやりたい人を考慮し携帯ゲーム～テレビゲームまでできる限り希望にこたえられるようにしています。醍醐味は、定期的で開催されるゲームトーナメントです。ゲームは見るだけが好き…な人でも大歓迎！アットホームな雰囲気の中話しながら楽しみましょう！



New 珈琲研究会

珈琲研究会では、喫茶店にコーヒーを飲みに行くことに加え、コーヒーの味とコーヒー事業に関する研究をします。分からないことがあったり、コーヒーが飲めなくてもぜんぜん大丈夫です。活動はゆるめですので気軽にどうぞ!!!

